

バレイショ

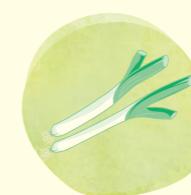
山武経済センター 営農指導員 古川 聰



農作業

テクニカルダイアリー

秋冬ネギ



成東経済センター 営農指導担当者 大場 鴻人

令和7年産
夏から秋の振り返り

一般的に種芋は大きいほど初期生育が良く、茎数が増えて芋数も多くの傾向がありますが、種芋重量が60g以上になると収量に大きな差はなくなります。種芋を準備する際は、10kg当たりに植え付ける種芋量を140kg～160kg、切

種芋の切り方



写真④ 畑のカルシウム

断時の1片の大きさは30cmを目安とします(表② 参照)。

注意してください。

種芋を受け取つたら、まず現物を確認しましょう。腐敗芋(腐敗・軟腐病・黒あざ病)や傷(割れ)があるものは除去してください。

催芽は散光に当てる行います。催芽を適切に行うことでの生育や品質のばらつきの軽減、収量の安定につながります。ビニールハウスで浴光催芽を行う場合は、温度が23℃以上にならないようにし、直射日光が当たらないよう遮光ネットを展張するなどの対策が必要です。また、夜間の凍結にも十分注意してください。

種芋の管理について

適切な土壌pH(5.5～6.0)を維持し、pHが高い圃場(6.5以上)での作付けは極力避けましょう。基準より高いpHで作付けを行う場合は、そ

うか病の発生を助長する恐れがあります。発生すると進行が非常に早く、感染力も強いため、プロポーズ顆粒水和剤やレーバスフロアブルなどの薬剤を散布し、早期に防除しましょう(表③)。

※各切片に正常な芽が2つ以上含まれるよう切断する。
S・2Sは切断せず全芋を使用する。

土壌改良剤「畠のカルシウム」(写真④)は土壌pHを上昇させずカルシウム分を補給できる資材です。pHが高く、乾燥などのストレスがある圃場で、効果が期待でき、おすすめです。

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決!
栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

J.A.山武郡市 営農なんでも相談室
(本所 営農部内)

0120-972-860

表③ 痘病に登録がある薬剤例

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
プロポーズ顆粒水和剤	750～1000倍	収穫7日前まで	5回以内
レーバスフロアブル	1500～2000倍	収穫7日前まで	2回以内

圃場の準備

断時の1片の大きさは30cmを目安とします(表② 参照)。

疫病

病害対策

●葉枯病(黄色斑紋病斑)
15～20℃で発生しやすく、春から秋まで長期間発病する病害です。初期には先枯れ病斑(写真①)や斑点病斑(写真②)が現れ、気温の低下や冷え込みが強まるとき、黄色斑紋病斑(写真③)が発生します。出荷物の

気温の低下に伴い害虫被害は徐々に減少しますが、これからの時期は葉枯病(黄色斑紋病斑)、さび病、べと病などの病害発生が懸念されます。

●さび病
15～20℃で多湿条件のときに発生しやすく、特に降雨や霧が出た後に被害が拡大します。降雨・霧が多い時期は予防を徹底し、発生を確認した場合はすぐに防除を行いましょう。葉枯病と同様、窒素過多は早めの予防的な防除が重要です。

●べと病
気温15～20℃で多湿条件のときに発生しやすく、特に降雨や霧が出た後に被害が拡大します。降雨・霧が多い時期は予防を徹底し、発生を確認した場合はすぐに防除を行いましょう。葉枯病と同様、窒素過多は発生を助長するため注意が必要です。



写真③ 黄色斑紋病斑 ※



写真② 斑点病斑 ※



写真① 先枯れ病斑 ※

※ルーラル電子図書館より引用

表① 葉枯病、さび病、べと病に登録のある農薬

葉枯病	さび病	べと病	薬剤名	FRACコード	希釈倍率	使用時期	使用回数
○	○		アフェットフロアブル	7	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	○	アミスター20フロアブル	11	2000倍	収穫3日前まで	4回以内
		○	オロンディスウルトラSC	40, 49	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
○	○		カナメフロアブル	7	4000倍	収穫前日まで	4回以内
○	○	○	テーク水和剤	3, M3	600倍	収穫14日前まで	3回以内
○	○		パレード20フロアブル	7	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○		○	プロポーズ顆粒水和剤	40, M5	1000倍	収穫14日前まで	3回以内
○	○	○	メジャーフロアブル	11	2000倍	収穫前日まで	3回以内

RACコードを確認し、薬剤の薬剤を続けて使用しないよう注意してください。